

平成27年12月25日開催

教育委員会会議録

福知山市教育委員会

1 開会の日時 平成27年12月25日(金)
午後1時30分

2 閉会の日時 平成27年12月25日(金)
午後3時43分

3 招集の場所 ハピネスふくちやま 会議室1

4 出席委員の氏名 倉橋 徳彦
塩見 佳扶子
大槻 豊子
瀬田 眞澄
荒木 徳尚

5 福知山市教育委員会会議規則第4条により列席したもの

教 育 部 長	池 田 聡
教 育 委 員 会 事 務 局 理 事	中 川 清 人
次 長 兼 教 育 総 務 課 長	芦 田 誠
教 育 総 務 課 参 事	藤 田 一 樹
学 校 教 育 課 参 事	一 戸 香 里
学 校 教 育 課 総 括 指 導 主 事	端 野 学
次 長 兼 生 涯 学 習 課 長	崎 山 正 人
生 涯 学 習 課 参 事	横 山 尚 子
学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	芦 田 收
中 央 公 民 館 長	植 村 孝 子
図 書 館 中 央 館 長	塩 見 英 世

6 福知山市教育委員会会議規則第15条による会議録作成者

次 長 兼 教 育 総 務 課 長 芦 田 誠

7 議事及び議題

別添のとおり

8 質問討議の概要

別紙会議録のとおり

9 決議事項

議題 26号 原案どおり可決、承認

議題 27号 否決

福知山市教育委員会会議規則第15条により署名する者

平成 年 月 日

福知山市教育委員会 委員長

福知山市教育委員会 委員

福知山市教育委員会 委員

福知山市教育委員会 委員

福知山市教育委員会 委員

教育委員会会議録調製者 教育部長

教育委員会会議録

1. 開会

倉橋委員長が開会を宣告。

2. 前回会議録の承認

11月20日に開催しました教育委員会会議録について、出席委員全員異議なく、承認されました。

3. 教育長報告の要旨

荒木教育長から以下の報告がありました。

①地域で支える「地域未来塾」開講事業の進捗状況について

子どもの貧困やその連鎖が大きな社会問題となるなかで、本市教育委員会としても子どもたちへの支援となる施策を進めておりますが、その一つとして「地域未来塾」開講事業があります。資料2をみていただくと、出席状況は80.1パーセントで高い出席率であります。最初は指導者側にも不安があったようですが、生徒たちの反応は、その資料の生徒の感想からも分かるようにとても好意的なものです。この事業による人間的なつながりのなかで、学力の基盤となるコミュニケーション能力や学習習慣、生活習慣が少しずつ育ってきているのではないかなあとと思います。次年度は拡大して子どもの貧困に対する取り組みを図っていきたいと考えます。

②学力支援の方策について

学力向上を目指す取り組みは、各小中学校で取り組んでおりますし本市教育委員会においても色々な施策を打ち立てておりますが、今日は府の施策を御紹介させていただきます。

このほど府教委が「保護者のみなさんとともに」というリーフレットを発行しました。これは、全国学力・学習状況調査において、正答率の高い順に上位から25パーセント刻みにA層からD層まで4段階に分け、この調査のなかで行う生活面の質問との相関関係を調べたものです。この結果には「基本的な生活習慣の確立」、「家庭での学習習慣の定着」、「家庭でのコミュニケーションの有無」が学力に大きな関係があるとして、保護者へ啓発を図るものです。

また、府教委は学力向上の施策として、府の学力診断テストを踏まえて、中学1年では、「ふりかえりスタディー」を、中学2年では「学力アップ」を行い、小学校5年では、27年度から「ワクワクスタディー」を行っています。府教委が全国学力・学習状況調査や学力診断テストをどのように活用しているかを知っておいていただきたいと思います。

③学校統廃合の取り組みの進捗状況について

学校統廃合の進め方については教育環境の整備に向けて早い統合をしたいと考えております。

今日は、旧三和町と旧大江町の状況の概略をお話しさせていただきますが、夜久野学園の実践を反映させて、旧三和、大江町は「小中一貫校」を進めていくことが望ましいのではないかと考えます。

まず、学校基本法の第10条にもありますように子どもの教育について第一義的に責任を負う父母・保護者に理解をしていただくことが最も重要でありますことから、現在、PTAを中心に市教委では説明を行っている状況でありま

す。ここで一定の方向が決まった段階で、地域のみなさんの意見を集約していくこととなります。そして、この2つの段階を経て学校統合に向けた具体的な取組みに入ります。

直近の動きについては、11月24日に三和地域の夜久野学園の視察・研修会が行われました。内容は資料を後で読んでいただきたいと思います。大江地域についても、12月15日に夜久野学園へ視察・研修へ行かれました。この視察研修で参加者から出た小中一貫校に関する質疑応答を資料に示しておりますのでご覧いただきたいと思います。

倉橋委員長 教育長から3点、報告をいただきました。御質問、御意見はありませんか。

未来塾に関して、参加する子どもたちは、自主的に参加をしているのですか。それとも学校の支援、呼びかけのもと参加をしているのですか。

荒木教育長 学校は子どもの思いを尊重しながら、声かけをしておりますので、学校の関わりは大きいと思います。

倉橋委員長 他にありませんか。

瀬田委員 実施教科が数学と英語となっておりますが、これだけにされた理由を教えてください。

崎山次長兼生涯学習課長

つまずきが具体的に分かる教科は数学や英語であることから教える側にとって教えやすいということがあります。また生徒たちにとっては短期間でやった実感が得られるのは、数学や英語であることからこの2つの教科を実施しております。

塩見委員 学校統廃合に関して、先ほど旧三和町、大江町地域の方々から夜久野学園へ視察研修に行かれたと報告がりましたが、12月4日に行われた夜久野学園の研究発表会に私も参加させていただきました。夜久野学園の開校から3年目となり子どもたちの様子にも変化が感じられました。他市から視察があることは聞いておりますが、この様子を市内の方々にも視察していただきたいと思います。

倉橋委員長 他にありませんか。

府教委の作られたリーフレットをどう活かすかが大事であると思います。これを学校としてどう活かし、保護者へ啓発されるのか、何かお考えがあればお願いします。

荒木教育長 保護者全員に配布するリーフレットですが、一度きりでなく何回も繰り返し伝えていくことで、啓発したいと思います。

倉橋委員長 学校統廃合に関しては現在、教育委員としても市立学校教育改革推進プログラムの後期計画において、検討を重ねてお

りますが、このような様々な意見も聞かせていただきながら整理をしたいと思います。

他にありませんか。

全委員

特になし。

倉橋委員長

では、次に議題へ移ります。

4. 議事

(1) 議第26号(平成28年度学校教育の重点について)

端野総括指導主事

～資料に基づき説明～

それでは、お手元の資料に基づき説明をいたします。まず、表紙について、27年度は府のはぐくみたい力とあわせて市の教育目標を載せておりましたが、28年度は市の教育目標のみとしました。写真も昨年と違うブロックを載せています。裏表紙は、今年度の全国学力・学習調査の質問紙調査の4項目を「福知山の子ども姿」で載せております。

ページを全部、開いていただいて、左側の「確かな学力を育てる教育の推進」から右側の「平成28年度の重点項目」まで、アンダーラインを引いている部分が本年度、言葉の表現を変えたり、新たに挿入したりしたところとなります。

「確かな学力を育てる教育の推進」では、1つ目のところ、『幼児教育』の充実としました。保幼小中一貫の連携において、特に就学前の接続において課題があることから、本年度、公立の保育園だけとはなりますが主任保育士と主任教諭を集めてスタートカリキュラム等の協議をする場をもつこととなっております。このような取り組みから28年度は幼児教育の充実をあげております。2つ目のところでは、京都府の『はぐくみたい力』を加えました。4つ目のところについては、『アクティブ・ラーニングなど』にしております。アクティブ・ラーニングは、受け身的な学習から能動的な学習へ、また何を学ぶかではなく、いかに学ぶかという指導の視点の切替えということで、この表現をあげております。

5つ目、6つ目のところは表現の変更、文言を加えております。

7つ目のところは、『読書活動を通じた創造力・表現力の育成』とし、現在、福知山市子ども読書活動推進計画の第2次を作成していることから『第2次』を加え、そして子どもの読書時間が少ないことや学校からあげられる課題のなかで『読書指導、図書館利用指導』が必要であることから新たにこの文言を加えました。

「一人一人を大切に、個性や能力を伸ばす教育の推進」のところでは、1つ目のところで、『進路指導の充実』としました。これは、附属中学校が開校するなど市立学校を取り巻く環境が変わり、特に小学校6年生の進路指導においては、これまで以上に適切に行う必要から『指導』という文言を加えました。

「豊かな人間性と社会性を育てる教育の推進」のところについては、まず1つ目のところで、昨年は2つ目の「児童生徒の心に響く、豊かな体験活動を生かした多様な指導」のところにあげていた『「京の子ども 明日へのとびら」・「私たちの道徳」の有効活用、体験活動を生かした道徳の時間の工夫授業公開による家庭・地域との連携』の表現をこの1つ目にあげて、2つ目のところには『感性・情緒を養い、人を思いやり、命を大切に作る心の育成』を入れました。また、3つ目のところは、『・・・し、地域の将来を担う人材の育成』としました。これは、公立大学の開校を注視していくことからこの文言としました。5つ目のところは、『・・・手法への評価・・・』の表現が正しいことから『へ』の文字を入れました。7つ目の項目については、どの学校においても非行防止教室は実施されておりますので、『充実』の文言を加え、『法やルールに関する教育の推進』の表現を入れました。

「健やかな体を育てる教育の推進」のところでは、1つ目のところのなかで、『基本的生活習慣の確立』の表現を加えました。また、3つ目のところでは子どもたちは毎日、給食を食べておりますことから、『食育の観点を踏まえた学校給食の活用』という表現を入れました。

「社会の変化に対応する教育の推進」のところは、4つ目のところで、『援護制度の有効活用』を加えました。これは現在、市内全市立小・中学校に準要保護適用の児童生徒が在籍しておりますことからこの文言を入れております。そして、主権者教育に向け新しく5つ目に『社会的自立と社会参加の力を育む教育の推進』を加え、『自ら判断し行動できる資質や能力の育成』とあげました。

「魅力ある学校・園づくりと教職員の資質能力の向上」では、1つ目のところで、「・・・文武向上プランの『有効活用』、・・・、『チーム学校』」の表現を入れました。『チーム学校』は専門性をもった教職員を配置して、複雑多様化した課題を組織的に対応できる体制をつくるものです。3つ目は、昨年、保育園としていた文言を『保育所』にしました。4つ目については、『情報共有と連携強化』を加えました。

「平成28年度の重点項目」については、2点目のところで、27年度は「・・・成果（確かな学力・生徒指導・進路）の普及を図る」でしたが、平成23年度策定の学校教育改革推進プログラムを進めて5年が経過し、この前期計画の見直しを図る中で、今回は『・・・成果（確かな学力・生徒指導・進路）を求める』としました。

つづいて、両開きをひとつ閉じていただいたところの「シームレス学園構想」の部分について、全体としては昨年を引き継ぎます。しかしながら、文科省の全国学力・学習調査や府の基礎学力診断テストの結果を見る中で、小学校が高く、中学校が低いという傾向がここ数年続いておりますので、「小5・小6・中1の展開期」のこの時期に課題があるのではないかと感じております。来年度はこの時期に焦点を当てて学力等の検証をし、ここであげている展開期の項目でよいのか、

もう一度検討することが大事であると考えます。

前回の教育委員会協議会で、ご指摘をいただいた3点のことについてですが、まず1点目は系統性の問題です。これについては、保幼小中一貫連携のなかで系統性は当然、含んでおりますし、また、小学校、中学校の学習指導要領に基づき、教育課程は編成されていますので、系統的な指導はされています。

2点目は文字についてですが、『はぐくむ』が、漢字とひらがなの2つの表記があるということについて、「確かな学力を育てる・・・」の2つ目にある『はぐくみたい力』と「健やかな体を・・・」のところの4つ目の『いのちを守る・・・はぐくむために～・・・』のところは、ひらがな表記とします。これは、府の文書等で使われている固有名詞、表現であることからこの2つはひらがな表記とし、他のところは漢字表記にします。

また3点目も文字についてですが、『いかす』の表記については、『活かす』は常用漢字にありませんので、すべて『生かす』にいたします。このように漢字の使い分けや文字を変更し整理しました。説明は以上といたします。

倉橋委員長

前回、協議会で話し合った内容を踏まえて事務局で検討いただき、本日、議題として提出いただきましたが、質問はありませんか。

塩見委員

前回の協議会の意見等を踏まえて、内容の御検討をいただきありがとうございます。

表記についてですが、表紙の左の写真の説明なかで、『・・・先生の指導で・・・』という表現には違和感を覚えます。『・・・教師の指導で・・・』というような言い回しの方が適切ではないかと思いました。また、その横の右側の写真の説明についてですが、『吹奏楽部が入場行進の演奏 運動会を盛り上げた』とあります。他の写真の説明には、写真に関する成果等の表記はありませんので、他の写真との整合をとっていただければと思います。

「確かな学力を育てる・・・」のところの2つ目で、『はぐくみたい力』とありますが、これは、先ほど端野総括指導主事より御説明がありましたように京都府の3つの力です。しかしながらこの市の重点のなかでは、そのことが記されていません。注釈等をつけて説明をされた方がよいのではないかと思います。また、この『はぐくみたい力』につづけて『コミュニケーション力・主体性・協調性』とありますが、この部分は言葉だけの表記で終わっています。昨年はこの言葉の後に『・・・協調性の育成』とありました。昨年と同じように『・・・の育成』とか『・・・の充実』が入っている方がよいのではないかと思います。

「一人一人を大切にし、個性・・・」のところの3つ目ですが、『・・・、特別支援コーディネーター・・・』とありますが、『特別支援教育コーディネーター・・・』ではない

かと思えます。

「豊かな人間性と社会性を育てる・・・」のところ、5つ目について、先ほどと同じように『差別を許さない人材育成基本計画』で終わっています。この計画をどうしていくのかという表現がある方がわかりやすいのではないかと思います。

「社会の変化に対応する・・・」のところ、5つ目が今年新たに加えられているところとなりますが、そこが太字の表記となっております。他のところと合わせる表記が必要であると思えます。

「魅力ある学校・園づくりと・・・」について、1つ目のところで、この部分も『チーム学校』で止まっています。『チーム学校の確立』とか『・・・体制づくり』などの言葉があるほうが分かりやすいのではないかと思います。

倉橋委員長

塩見委員からご指摘をいただきましたが、早々に修正いただくところもありますが、また検討いただくところは検討していただき、整理をお願いしたいと思います。
他にありませんか。

全委員

特になし。

倉橋委員長

文言等の細かいところは、再度検討いただいて整理していただくことにします。それでは、全体の内容において、議第26号について決議をさせていただきます。

全委員

異議なし。

倉橋委員長

それでは、異議はないので、可決承認いたします。
次に議第27号に移ります。

(2) 議第27号(平成28年度社会教育の重点について)

崎山次長兼生涯学習課長

～資料に基づき説明～

それでは、資料に基づき説明させていただきます。

このことにつきましては、前回の協議会での協議を踏まえ、文言の整理をいたしました。

まず表紙のところでは、先ほどの「学校教育の重点」との整合をとり、表現を合わせていくことにしますので御理解いただきますようお願いします。

開いていただきまして、この部分は重点項目と絵図の箇所を修正させていただきました。重点項目の一つ目のところでは、前回は「啓発に努める」としておりましたが『啓発を進める』に修正しました。3つ目の児童クラブに関するところでは、28年度に一定の整理がつくことから表現を『運営に努める』としました。

それでは、その内容に関して、さらに開いていただき、ご覧ください。

左の「生涯学習社会の実現」のところでは、前回の説明か

ら若干変更した内容について申し上げますと「2・公民館活動の推進」のところで、地域公民館の活動が住民の皆さんにしっかりと根付いて様々な活動に取り組んでいただいておりますことから、生涯学習課としても後押しをして公民館を核としたさらなる地域の課題解決に向けて取り組んでいただきたいという思いのもとこの項目を整理しました。1つ目に『地域の絆を深め、地域課題の解決に向けた学習活動』、2つ目に『地域環境向上の取組』、3つ目に『自主防災への取組』、4つ目に『学校支援の取組』、5つ目に『健康社会構築の取組』をあげ、説明箇所の整理をさせていただきました。「3. 図書館活動の推進」では、新しい図書館がオープンしましたので、文言等の整理をしました。

次の「共に幸せを生きる社会の実現」、「家庭・地域社会の教育力の向上」のところでは、前回の協議会で説明した内容と変更はありません。

「文化・文化財保護の推進」のところも少し文言の整理をしましたが、昨年度と大きな変更はありません。

裏表紙については、前は「家族だんらんの日」の手紙・作文集の表紙を載せておりましたが、今回は応募いただいた絵手紙の作品を載せております。

説明は、以上とさせていただきます。

倉橋委員長

「社会教育の重点」についても協議会で話し合ってきましたが、本日の議題として提出いただいたなかで、気が付かれることや質問がありましたらお願いします。

塩見委員

京都府では、平成23年に「京都府教育振興プラン」を策定し、それまで社会教育の理念を示すものとして「指導の重点」であったものをこのプランを踏まえて「社会教育を推進するために」と名称を変え社会教育の方向性がまとめられています。これと福知山市の「社会教育の重点」との整合が図られているのかを考えながら、この市の重点を拝見しますと、この中には重要なことがたくさん書かれています。社会教育に携わってきた経験から社会教育を推進する難しさや大変さは感じております。それゆえ、内容において選択と集中で、取り組みやすいものであればと思います。

崎山次長兼生涯学習課長

現在までの社会教育にかかる本市の組織の変遷から、業務が有機的につながるための内容であると考えます。どちらかと言えば、一般向けの啓発ではなく、職員の意識づけを図る内容になっていると言えます。

倉橋委員長

配布先はどこですか。

崎山次長兼生涯学習課長

P T Aや公民館の関係者にお配りをしておりますが、各戸配布しているものではありません。

塩見委員

最初に開いたところの「生涯各期」のイメージのところ、
「人材育成」までずっと線が上につながり、最終が「人材育成」であるようにみえます。人材育成は生涯各期で発達に応じて行うものですので、この線についてお考えいただければと思います。次に「平成28年度の重点項目」の3つ目のところで、『放課後児童クラブの運営に努める』とありますが、運営に努めるのは行政側として当然であると思いますので、『運営の充実に努める』などの文言を加えられてはどうかと思います。

「生涯学習社会の実現」のなかで、「1. 生涯学習の推進」の1つ目のところで『社会教育関係行事』は、どのようなものをイメージされていますか。

崎山次長兼生涯学習課長

成人式や子ども大会、また子どもたちを対象にした人権講演などの事業です。

塩見委員

そうすると若者が対象ということだと思います。私としては、その部分に『…市民一人一人の自己実現・・・』とありますので、婦人も高齢者も若者もさまざまな人が社会教育関係行事に関われるようにと思います。そうすると「若者の・・・」と限定された表記にすると社会教育が狭められるように思いました。また、2つ目のところで「・・・出前講座の利用促進と内容の充実」は、講座の内容を充実させたいという利用の促進を図っていくものだと思いますので、表記が反対ではないかと思います。

「共に幸せを生きる社会の実現」のところの「1. 人権教育の推進」の4つ目において、『教育集会所学習活動の充実』と教育集会所だけの表記になっています。福知山市全体をみるとこの施設だけがすべてではないと思いますので、『教育集会所を含む社会教育施設での学習活動』ではないのかなあと思います。次の「2. 障害者教育の推進」で、『障害者』の表記については、さまざまところで議論がされていますが、福知山市では『障がい者』という表記をされるのかどうか教えてください。

崎山次長兼生涯学習課長

本市としての整理はされていますので、再度、福祉保健部に確認をいたします。

荒木教育長

委員長が言われたようにこの重点をどこへ配布するかというのを考えながら、塩見委員にご指摘いただいたことをしっかり心に留めてもう一度見直していただきたいと思います。

倉橋委員長

もう一度、方向性を整理していただいて、1月の教育委員会会議で諮らせていただきたいと思いますが、どうでしょうか。

全委員 異議なし。

倉橋委員長 それでは、議第27号についてはここまでとしまして、次に報告事項へ移ります。

5. 教育委員会 報告・説明事項について

(1) 後援申請の承認結果について

由里教育総務課係長 ～資料に基づき報告～

No. 7 3 第15回大江山鬼っ子マラソン大会

No. 7 4 第31回酒呑童子盃争奪柔道大会

No. 7 5 聞かせや。けいたろう読み聞かせ会
聞かせや。けいたろう読み聞かせ講習会

倉橋委員長 後援承認について、質問はありますか。

全委員 特になし。

倉橋委員長 それでは、次に「平成28年度福知山市立幼稚園の入園募集結果について」をお願いします。

(2) 平成28年度福知山市立幼稚園の入園募集結果について

芦田次長兼教育総務課長 ～資料に基づき報告～

「平成28年度福知山市立幼稚園の入園募集結果」について御報告します。

資料の16ページからお願いします。

募集については11月2日から20日まで申込みの受付を行いました。全幼稚園の応募者は、140人であり、昨年度と比較しますと101人減でありました。これは、平成27年度園児募集では4歳児を120人募集したのに対し、平成28年度では進級希望者を定員から差し引いた人数49人だけを募集したことによるものです。5歳児については、募集枠28人に対し応募者は5人であり、全員が入園できることとなりました。4歳児については、応募枠49人に対して応募者は32人ありますが、園ごとで見ますと福知山幼稚園で3人、成仁幼稚園で1人、応募超過となりました。また、3歳児については、全体の募集枠75人に対し、103人の応募がありました。園ごとにみますと、福知山幼稚園では7人、昭和幼稚園では11人、成仁幼稚園では10人が応募超過となりました。

応募超過となったクラスについては、12月5日に各園で抽選を行ったわけですが、既に兄弟が申込園の3歳児4歳児クラスに在籍している場合は、その幼児に対して優先枠を設けております。そのため、この幼児については優先的に入園となりました。優先枠で入園が決まった各園の3歳児クラスの状況は福知山幼稚園で4人、昭和幼稚園で11人、成仁幼稚園で5人でした。

4歳児については、昭和幼稚園で定員に余裕がありますの

で、抽選ではずれた保護者がその幼稚園へ入園を希望されれば入園できることを抽選会場で案内しております。

倉橋委員長 このことについて、御質問はありませんか。

大槻委員 4歳児で入園できなかった4人の方は、昭和幼稚園への入園を希望されているのでしょうか。

芦田次長兼教育総務課長
現在のところは、そのようなことは聞いておりません。

大槻委員 昭和幼稚園の場合、3歳児に関し25人の募集枠に対し、11人が優先枠で入園が決まっております。募集案内には、優先枠について明記され、これを理解したうえで保護者も応募されているとは思いますが、特に保護者から不満等の意見はありませんでしたか。

芦田次長兼教育総務課長
昨年は、10件ほどありましたが、今回は1件、ありました。

倉橋委員長 昨年と今年の状況をみますと、3歳児の受け入れに関して施設的な問題もありますが、昭和幼稚園の3歳児が2クラスになれば、ほぼ希望される状況が叶うのかなあと思います。受け入れる施設の問題がありますので難しいですが、検討も必要であるかと思えます。

池田教育部長 昭和幼稚園は4歳児・5歳児が2クラスですので、ここであれば3歳児をもう1クラス増やしてもそのまま進級は可能となります。しかしながら教室がありませんので、教室を造らなければなりません。昨年の段階では様子を見ていこうという思いでしたが、このような状況が続くようであれば考えていかなければなりません。しかしながら今の昭和幼稚園の場所で教室を増やすことは難しい状況ではあります。

倉橋委員長 市民の要望と財政的な状況を考えなければなりませんので、すぐに出来るものではないと思いますが、人数からみると検討していかなければならないのかなあと思います。
他にありませんか。

全委員 特になし。

倉橋委員長 次に「平成28年福知山市成人式について」をお願いします。

(3) 平成28年福知山市成人式について
崎山次長兼生涯学習課長 ～資料に基づき報告～

それでは、資料18ページをお願いします。

開催の目的は、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励ますためであります。

新成人対象者は、平成7年4月2日から平成8年4月1日までにお生まれの772人で、例年の出席率からみますと600人から650人の出席者があるだろうとっております。

日時については、平成28年1月10日（日）の午後1時30分から受付を行い、2時から3時までの約1時間、式典を行います。場所は、三段池公園総合体育館メインアリーナでございます。式次第は、府立工業高校のMambou Jazz Bandの吹奏楽の演奏から始まり、市歌斉唱、市民憲章朗読、式辞と祝辞をいただき、新成人の主張へと続きます。今年は4人から応募がありました。発表者は資料のとおりです。そして、教育長の閉会の挨拶で終わります。

運営協力団体は、京都府立工業高等学校吹奏楽部のMambou Jazz Band、福知山市合唱連盟、京都府立福知山高等学校放送部、そして募集しましたボランティアの福知山高校及び綾部高校生徒8人の方々、また会場警備においては福知山警察署、要約筆記には福知山市聴覚言語障害センターにお世話になります。記念品は、金封ふくさで昨年と同じであります。

倉橋委員長 このことについて、御質問はありませんか。

塩見委員 ボランティアはどのくらいの人を集めたいとお考えですか。

崎山次長兼生涯学習課長

仕事の内容は写真撮影のお手伝いですので、人数はこれくらいでよいとっております。人数よりも企画段階から従事いただくような仕事内容の検討が出来ればと思っております。

荒木教育長

2年前に社会教育委員会において、「若者の声が響くまちを目指して」という提言が出されました。このことから先ほど崎山次長が言いましたように成人式の企画段階から高校生のボランティアをいれて一緒に考えるような若者を中心に据えた施策等を考えていかなければなりません。

また、20歳の成人式の意味を考えなければなりません。18歳で選挙権が認められましたが、民法上の改正が行われない限り18歳を観念的に大人とすることは出来ないと考えます。従来どおり20歳を成人として、成人式では大人になったことを自覚する場にしたいと思っております。

倉橋委員長 他にありませんか。

全委員 特になし。

6. 閉会

倉橋委員長が閉会を宣言。